



世界の地域から



エチオピア

エチオピアは東アフリカに位置し、東をソマリア、西をスーダン、南をケニア、北をエリトリア、北東をジブチに囲まれた内陸国です。かつてはエリトリアを領有し紅海に面していました。首都はアディスアベバでアムハラ語で新しい花という意味です。日本の約3倍の国土に7,910万人が暮らします。

エチオピア人は、誇り高く、人類発祥から現代にいたるまでの長い歴史を持っています。約350万年前の最も初期の人類とされるアウストラロピテクスの化石人骨が北東部のハダールで発見されており、人類発祥の地とされています（写真右下）。古都アクスムの巨大オベリスク（石柱）にはミステリーが残されています（写真下中）。

12世紀から13世紀にかけてはエチオピア正教が繁栄し、特にラリベラの巨大な一枚岩をくり抜いて作られた岩窟教会の荘厳さと美しさは、見る者を圧倒します。（写真右上）

また、エチオピアは、フルーティーなアロマと、強い酸味が特長のモカを始めとするアラビカ種のコーヒー発祥の地です。日本の茶道と同様に、コーヒーを飲むという行為に精神的な要素や教養などが含まれるという文化習慣を持ちます。他者に対する感謝ともてなしの精神を表すものであるコーヒーセレモニーはエチオピアでは結婚前の女性が身につけるべき作法の一つとされています。大切なお客を迎える際になどに使われるポットやカップなどの茶器は女性が実母から、あるいは嫁ぎ先で代々受け継いでいることもあります。（写真左）

エチオピアからは今号で紹介している2都市以外にもデブラマルコス市など6都市から姉妹都市提携の希望が寄せられています。



ハラール市

ハラール市はエチオピア東部の都市で、ハラリ州の州都。アディスアベバからは約500km離れています。ジュゴルと呼ばれる城壁に囲まれたハラールの歴史的な町は、82のモスクが存在し、「歴史的城塞都市ハラール・ジュゴル」の名で、2006年にユネスコの世界文化遺産に登録されています。



↑ハラール市には5つの門があり、多くの人でにぎわいます



→ 女性の手で作られた
様々な形や色の籠



→ ハラールの伝統衣装に
身を包んだ女性



↑ハラールで最も大きいモスク。宗教はエチオピア正教（エチオピアで独自に発展したキリスト教）、及びイスラム教の信者が多い。



← 市内美術館所蔵の宗教関係書籍

アダマ市

アダマ市はオロミア州の州都で、アフリカ大地溝帯に沿って緑の豊かな農地が広がります。首都アディスアベバに近く国立アダマ大学を始め多くの教育機関があります。市の近くにはソダーレなどの人気の温泉リゾートがあります。



↑ エチオピア正教の教会



↑ オロモ民族の衣装を身につけた女性達

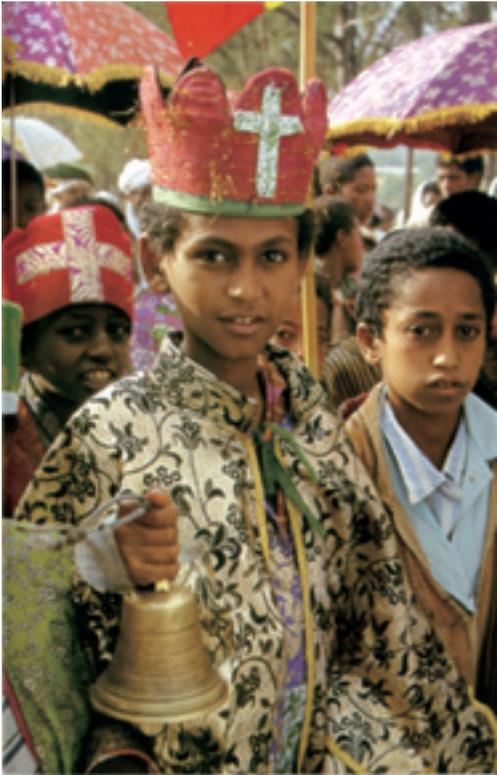


←↑ 市内の近代的なリゾートホテル

↓ 市郊外の美しい風景



エチオピアはシミエン国立公園が世界自然遺産となっており、多くの貴重な動植物がありますが、それ以上に、ラリベラの岩窟教会群など7カ所の世界文化遺産があることから推測されるように歴史と文化に彩られた国といえます。



↑ 祭典において宗教衣装に身を包んだ少年



↑ 地溝帯にある湖のいくつかでは多様な鳥類が見受けられます。



← タナ湖を発したアバイ川（通称ブルーナイル）は、全長1,450kmにも及ぶとされるアフリカ最大の川の1つです



← エチオピアの北東部アファール地方に位置するエルタエールと呼ばれる活火山。頂上に溶岩湖を持っており、このような火山は世界で5つしかないとされています。



↑ アバイ川渓谷に架かるこの橋は日本の財政援助で建設されました。この高速道路はここから70km先のデブラマルコス市へと続いています。